

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるために



「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の1つのアプローチとして、「児童の学びの姿」と、その学びの姿を実現する「教師の働きかけ」の双方の視点から授業改善を図ることが有効だと考えられます。双方を行き交いながら、授業改善を行い、数学的に考える資質・能力を育成していきましょう。なお、本プロジェクト研究において、以下の資料を作成しました。授業改善を図る参考資料として御活用ください。

	児童の学びの姿	教師の働きかけ（例）
「主体的な学び」	・ 学ぶことに興味や関心をもつ。 ・ 問題の解決に向けて解決や結果の見通しをもつ。 ・ 問題の解決に向けて粘り強く取り組む。 ・ 問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりする。	・ 日常の事象や算数の学習場面から、児童が自ら問題を見いだす機会を設ける。 ・ 問題を解決するために既習事項を用いてどのように表したり処理したりする必要があるかについて構想を立てる場面を設定する。 ・ 一つの方法で解決したあとに、別の方法について考えを進めたり、それぞれの解決の方法について検討したりするように促す。 ・ 児童一人一人が、それぞれのペースで学習を進めることができるように学習時間の柔軟な提供・設定をする。 ・ どのような点に着目して「数学的な見方・考え方」を働かせるによりよく問題解決できたかを振り返る場面を設定する。 ・ 児童が自分の学びを自覚したり、新たな問いを見いだしたりできるように、何ができるようになったかや、ほかにどのようなことが解決できるのかを考える機会を設ける。
「対話的な学び」	・ 筋道を立てて説明し合い、新しい考えを理解する。 ・ 話し合い、よりよい考えに高めたり、事柄の本質を明らかにしたりする。	・ 具体物、図、言葉、数、式、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を設定する。 ・ 具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関連を図る機会を設ける。 ・ 目的を明確にした意見の交流や議論などを適宜取り入れる。 ・ 1人1台端末を活用し、考えを共有しながら話し合うことができるように環境を整える。
「深い学び」	・ 「数学的な見方・考え方」を働かせる。 ・ 問題を解決するよりよい方法を見いだす。 ・ 意味の理解を深めたり、概念を形成したりする。	・ 問題提示の工夫や、児童の発言に問い返すことにより、働かせる「数学的な見方・考え方」の自覚を促す。 ・ 働かせる「数学的な見方・考え方」を板書などで示し、可視化する。 ・ 問題発見・解決の過程を繰り返す。 ・ 学習の過程と成果を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感する機会を設ける。 ・ 新たに得た知識や技能を既習事項と関連付け、統合的・発展的に考える場面を設定する。

「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 算数編」、[「平成 30 年度 プロジェクト研究（小学校算数科教育研究委員会）」](#)、[「令和 5 年度 個別実践研究（個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実）」](#)を基に作成

ICTを積極的に活用するなどして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点からも「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図っていきましょう。なお、授業改善の具体については、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた[授業改善事例【事例Ⅰ】【事例Ⅱ】【事例Ⅲ】](#)を御参照ください。

